

2018 年度 事業報告書

自 2018 年 9 月 1 日
至 2019 年 8 月 31 日

一般社団法人アジアパシフィックアライアンス
東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12 富ヶ谷小川ビル 2 階

1. 総括

各国の経済界や NGO などの連携によるナショナルプラットフォームを各国に設置し、同時に各国ナショナルプラットフォーム間の相互支援を行う、日本イニシアチブの新しいタイプの地域国際機関として設立してから本年度で7年目となる。本年はメンバー6か国の国内災害対応プラットフォームの強化に注力するとともに、合計10回の災害対応を実施した。スリランカ、フィリピン、バングラデシュ、日本ではナショナルプラットフォーム内での支援物資の調達による支援活動を実施し、インドネシアでの災害対応ではマネジメントオフィス（MO）による災害緊急初動資金支援のみならず、A-PAD 韓国からの資金支援により相互支援が実現。また、新規国としてネパールにてプラットフォーム構築のための事業準備にも着手。外務省の2019年度国際機関評価では、「A-PAD を通じた活動の支援は、日本の推進する防災分野や人間の安全保障に係る取組をアジア太平洋地域において官・民・NGO を含めたマルチステイクホルダー連携を通じて推進する上で非常に重要である」と最上位の「A」判定を得るなど実績を確実に重ねた飛躍の年となった。

2. 事業報告

2-1 緊急災害対応

インドネシアでは2018年7月のロンボク島地震、9月のスラウェシ島での地震、そして12月のスンダ海峡津波が続けて発生し、A-PAD インドネシアと現地パートナーである ACT は連続した緊急対応を実施することとなった。また、日本においても9月の北海道胆振東部地震は同年7月に発生した西日本豪雨災害対応と同時に対応した緊急支援となった。

スリランカでは2019年4月に教会とホテルがターゲットとなった同時爆発テロ事件が起こり、A-PAD スリランカは、企業らとの連携による被災者支援活動で初めて自然災害以外の対応を行った。

韓国では、2019年4月に大規模火災が発生し、A-PAD 韓国としてはじめての国内での緊急支援活動を行った。避難所の管理や物資の配布などは日本で活動経験を積んだスタッフが行政と連携して活躍するなどの実績を積むことができた。

フィリピンでは7月に超特大台風マンクットが上陸するのを前に、国際緊急支援チームが想定被災地近くに事前展開しスタンバイ。被害は予想より大きなものではなかったため調査後に撤収したが、想定被災前から事前展開することで被災直後に支援展開を目指す A-PAD としてのひとつの特徴として内外に示すことができた。



A-PAD ジャパン 北海道厚真町の土砂災害現場での活動の様子

フィリピン台風マンクット事前展開（2019年8月）

(緊急対応実績)

時期	国	災害	対応
2018 年 9 月	フィリピン	台風「マंकット」	M0 緊急資金 72 万円
9 月	インドネシア	スラウェシ地震	M0 緊急資金 520 万円 / A-PAD 韓国 3,700 万円
9 月	日本	北海道胆振東部地震	A-PAD ジャパン
12 月	インドネシア	スンダ海峡津波	A-PAD インドネシア / A-PAD 韓国 200 万円
12 月	スリランカ	北部洪水	A-PAD スリランカ / M0 緊急資金 200 万円
2019 年 1 月	フィリピン	熱帯高気圧「ウスマン」	A-PAD フィリピン / M0 緊急資金 100 万円
4 月	韓国	大規模火災	A-PAD 韓国 / M0100 万円
4 月	スリランカ	国内同時テロ	A-PAD スリランカ / M070 万円
5 月	バングラデシュ	サイクロン「ファニ」	A-PAD バングラデシュ
8 月	日本	佐賀豪雨	A-PAD ジャパン

2-2 各国活動ハイライト

①インドネシア

2018年7月のロンボク島地震ではA-PAD国際医療チームとレスキューチームの派遣受入れと現地での調整を行った。9月のスラウェシ島地震ではマネジメントオフィス（M0）からの緊急支援金520万円に加え、A-PADコリアから政府資金約1,000万円と民間資金2,700万円の支援を受けて協働事業を実施、さらに12月の スンダ海峡津波対応でも同じく韓国からの支援金約200万円を受けてメンバー団体であるACTと連携して被災者支援活動を行った。2019年2月以降はM0から複数回にわたってジャカルタに出張し、2019年度のN連事業申請のため、バリ島の観光業と連携した「地域レベルのBCPプラン」の策定モデル事業や緊急時に備えた準備と国内プラットフォームの構築に向けた活動の策定を行った。

②フィリピン

↓ミンダナオでのリージョナルプラットフォーム



フィリピン国内6地域（ビコル地方、中部ビサヤ地方、東部ビサヤ地方、ソクサージェン地方、ダバオ地方、イロコス地方）で「リージョナルプラットフォーム」を設置した。各地では地域の商工会議所が中核を担い、地元のNGO、地元行政と連携して緊急災害に備えるしくみで、平時から 地域での企業向けBCP（Business Continuity Plan）訓練や防災ワ

ークショップ、会議やイベントを通じてプラットフォーム構築が進捗した。 また、2019年2月には国際シンポジウムをマニラにて開催し、6地域のリージョナルプラットフォームの代表が一堂に会する機会をもち、緊急時の対応について、活動の事例共有や相互に支援する方法などについて協議した。

③スリランカ

2018年2月にスリランカ空軍と協働でレスキュー訓練を実施。4月には軍関係者や政府関係者、日本大使も招いた国際シンポジウムをコロンボで開催し、訓練の報告を行ったほか国内外メディアに広く報道され、特に国内の認知度を大きく上げることとなった。同4月にはコロンボ周辺の教会とホテル爆破テロを受け、被害者支援を開始。MOでもヤフー募金でファンドレイジングを行い、約70万円の資金を支援した。同5月にはモンスーンシーズンを前に、先のテロによる治安の悪化と重なって避難が進まず被災規模の拡大が予想されたことから、A-PADスリランカとして全国的な避難呼びかけのキャンペーン「死者ゼロキャンペーン」を実施するなど、新しい挑戦となった。それらの実績が認められHSBCより、防災教育などの事業について約1060万円の支援が決定（3年事業）。さらに7月には防災相の Disaster Management Center 干ばつ対応ワーキンググループに参加、British Asian Trustとの緊急時支援の協定、政府とともに推奨する緊急災害ホットライン117啓発キャンペーンを企画実施するなどA-PADスリランカにとって知名度の拡大とともに飛躍の年となった。



国際シンポジウム in コロンボ（2019年4月）



空軍連携での合同訓練（1月）

2019年4月スリランカ爆破テロ・緊急支援

災害・復興支援 国際協力



西部ネーグomboで爆発が起きた教会（提供：共同通信社）

寄付者 続行なし	
♥ 寄付総額（概算）	725,226 円
◎ 目標金額	1,000,000 円
▲ 寄付人数	3,065 人
⌚ 残り日数	38 日
達成率72%	
寄付する	

現在の継続寄付人数：5人

毎日の継続的な応援が大きな支えになります。

ヤフー基金での寄付募集を実施

（2019年4月）

④バングラデシュ

A-PADバングラデシュとして事務局CISを現地NGOとして登録し、DCHT（ダッカコミュニティホスピタル）が中核となり、保健医療と地域防災を軸に災害対応プラットフォームを構築している。2017年以降継続してロヒンギャ難民キャンプ支援を各国プラットフォームに呼びかけて実施。また、2019年3月には、国際シンポジウムをダッカにて開催し、国内外に

活動を報告した。シンポジウムには内務大臣が出席し、国内における参加企業等のメンバー賞書セレモニーも同時に実施した。5月にはサイクロン「ファニ」により各地での被害が心配されたが、実際には事前の住民による避難行動が多くみられ、大きな被害とはならなかった。現地では、災害対応プラットフォームとしてA-PADバングラデシュが昨年から実施してきた地域コミュニティや民間団体向け防災能力向上ワークショップが、避難行動への意識向上と行動につながったという評価を得た。



ロヒンギャ難民キャンプでの活動



サイクロン「ファニ」避難所での支援活動（2019年5月）

⑤韓国

2018年のインドネシアのスラウェシ地震を受け、国内で支援キャンペーンを展開。政府資金と民間資金をあわせて3,900万円を調達して支援事業を実施した。

2019年4月に韓国の江原道で同時多発的に発生した山火事による被害は市街地や森林など53ヘクタールに及び、韓国史上最大となる4,000名以上の避難者を出す事態となった。A-PADコリアは避難所への衣類、食糧等の配布支援を実施するなど、日本での経験を活かして緊急支援の経験がない自治体をサポートすることができた。MOではヤフー基金サイトを活用して募金を開始。日本から100万円の支援も実施。



⑥日本

2018年7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震、2019年7月の佐賀豪雨支援などの国内の災害において2017年にヤフー（Yahoo）とともに設立した、企業と連携した緊急物資支援のしくみ＝SEMA（Social Emergency Management Agency）を活用した支援活動を実施。また、捜索救助チームと医療従事者を専用機にて被災現場に緊急派遣する事業「空飛ぶ医師団」プロジェクトとして、北海道胆振東部地震で即日の派遣を行うなどロジステ

イクスの強みを生かした活動ができた。



また、2018 年 11 月には佐賀市総合防災訓練の一部として「みんな DE 防災フェス 2018」を開催。イベントは日本たばこ産業株式会社（JT）より寄付を受け、また、熊本地震より避難所の多様性を考える事業で協働してきた LGBT-JAPAN の協力や地元の CSO、佐賀大学などの学生ボランティアにより、テント宿泊訓練や炊出し、防災ゲームやスタンプラリーなど多岐にわたるプログラムを 2 日間にわたって実施し 1,300 人以上の参加者で防災を考える機会を得た。



「みんな DE 防災 2018」会場風景（2018 年 11 月）



北海道胆振東部地震「空飛ぶ医師団」（2018 年 9 月）

3 組織運営とファンドレイジング

3-1 2022 年に向けた目標設定

2019 年 2 月にフィリピン、3 月にバングラデシュ、4 月にスリランカの 3 回にわたって A-PAD 各国代表者と実務者 MO スタッフが会議を行い、2022 年に向けた中期計画を策定した。活動目標は

“To be the Most Influential Multi-sectoral HUB of Innovation and Collective Impact in Disaster Management”

災害支援におけるマルチセクター連携のハブとして、イノベーションとコレクティブインパクト（連携による最大限の効果）をもたらす存在となる

を掲げ、

- ① マネジメントオフィスと各国ナショナルプラットフォーム間における目標設定・実施・ピアレビュー評価サイクルの実施
- ② 参加国ならびに協力国の拡大、財源の拡充、人材育成等を通じた組織能力強化
- ③ 民軍連携や企業連携による緊急対応のしくみづくり、A-PAD 国際レスキューチームの創設、BCP プログラムなど特徴的な事業を展開
- ④ A-PAD 国際議員連盟、グローバル企業、国際メディアとの連携によるパートナーシップの強化と拡大

の 4 本のアクションプランを策定した。また、マネジメントサイクルとしては運営方針を 1) 四半期に 1 度の頻度で各国の進捗状況や成果を確認し、2) 毎年 2 月をめぐりに年間の評価を実施すること、また、各国ナショナルプラットフォームの広報体制を確立し、内外へのタイムリーな情報発信を徹底することを確認。さらに長期的な予算計画として、各国は、第 1 フェーズとして外務省資金（N 連事業資金）を活用してナショナルプラットフォーム構築と各国の特徴を活かしたモデル事業を実施し、災害時に機能できる組織を目指すこと。その上で、第 2 フェーズとして各国は構築したプラットフォームが災害時に活躍できるよう、その機能の維持のために必要な年間の運営管理費を算出し、外務省資金、民間資金を含めてマネジメントオフィスならびに各国ナショナルプラットフォームでその資金確保を行うための中長期的な計画を作成して運営を行うこととを定めた。

3-2 国際評価と広報活動

2019 年（令和元年）度の国際機関への拠出金に対する評価において、最上位である総合評価「A」をいただいた。公表されている評価シートでも「A-PAD の活動は日本の外交政策に一致するものであり、拠出金を通じて A-PAD の活動を支援することは日本外交政策遂行と軌を一にしている」「A-PAD を通じた活動の支援は、日本の推進する防災分野や人間の安全保障に係る取組を、アジア太平洋地域において官・民・NGO を含めたマルチステイクホルダー連携を通じて推進する上で非常に重要である」と評価いただいた。<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000507834.pdf>

広報活動としては、ウェブサイト（日英）を頻度高く更新するため、MO の各国担当が随時活動状況を確認するなど頻度高いコミュニケーションを心がけた。

3-3 ファンドレイジング

緊急災害ごとに緊急支援金（拠出金）だけではなく、MO は日本でのクラウドファンディングを活用した資金調達を実施。また韓国においても政府資金、民間資金ともに災害対応のための事業費用の資金調達を実施。特にインドネシアのスラウェシ地震（2018 年 9 月）、スンダ海峡津波（12 月）において、総額 3,900 万円の支援金を調達し相互支援の実績を積むことができた。また平時の各国プラットフォーム構築のための活動は以下のとおり日本外務省の NGO 連携無償支援（N 連）を活用して実施した。

- ・スリランカ（2018 年度）：. 2018 年 8 月 15 日～2019 年 8 月 14 日/ 37,447,187 円
- ・フィリピン（2018 年度）：2018 年 3 月 5 日～2019 年 3 月 4 日/ 37,239,137 円
- ・バングラデシュ（2018 年度）：2018 年 2 月 9 日～2019 年 2 月 8 日/ 51,184,663 円

なお、2019 年度の N 連事業として、スリランカ、インドネシア、バングラデシュと新規でネパールの事業の申請の準備も実施している。プラットフォームの拡充により、各国における特に緊急時の支援物資や資金を企業等と連携して調達するなどの活動にさらに注力したい。

- ・スリランカ（2018 年度）：. 2018 年 8 月 15 日～2019 年 8 月 14 日/ 39,162,258 円
- ・フィリピン（2018 年度）：2018 年 3 月 6 日～2019 年 4 月 5 日/ 37,239,137 円
- ・バングラデシュ（2018 年度）：2018 年 2 月 19 日～2019 年 4 月 18 日/ 51,184,663 円

以上